

# 同窓会の発展のために

## 同期会を結成しよう



同窓会会長 久本 甫

正月早々、震度六と云う十勝沖地震以来の四十年ぶりの大地震に見舞われました。まさに、天災は忘れた頃にやってくる、と云うやつです。

話を同窓会に戻しまして、釧中第一回生は大正七年三月の卒業ですから、今年は卒業後七十五周年を迎える事になります。昭和二十七年の十勝沖地震の年に卒業した湖陵四期生は、昨年秋季全国から百六十名の盟友が集まり、卒業四十周年記念大会を盛大に行いました。同窓会等への寄附をはじめ、新校舎見学、阿寒・知床への記念旅行そして立派な記念誌の発行等々。湖陵四期二七会の団結とその行動力には格別なものを感じます。

同窓会の今年の当番期湖陵十一期、二十一期、三十一期です。当番期に当る年齢は毎年五十三才、四十三才、五十三才です。この五十三才の第一回目の当番期に当りました時に、若し、同期会が結成されておりましたら、どうでしょう、これを機に結成されました。翌年は卒業十五周年ですし、

その後は毎年でも一年おきでも五年毎でも、集る機会は理由をつくれば、いくらでもあります。私の期のことで恐縮ですが、七期は同期会を毎年開催、それも釧路、札幌、東京と年三回行っております。各地とも毎年〇〇月の第二土曜と定めておりますので、出席者は予定が立て易い利点があります。

この春卒業の四十五回生の皆さんにもお願い致します。湖陵同窓会総会は、年々若い世代の人達の出席者が多くなっています。八月第二日曜の釧路の総会をはじめ、札幌・十勝・東京（いずれも期日不定）でも行なわれております。是非友人と誘い合って参加して下さい。同窓会って楽しいですよ。

同期会の結成と集りは、そのまま同窓会の発展へとつながります。いや同窓会の発展のみを目的とするのではなく、湖陵人、釧路人として先輩・後輩の繋がりを持ちながら、社会人としての貢献のありかたなども話し合う機会にもなります。

# 湖陵高校の発展を期して



学校長 笹山 平

前任の佐竹祥高校長に代わって昨年八月に着任致しました。以来六ヵ月が過ぎましたが、本校の現状についてお知らせし、ご挨拶に代えさせていただきます。

創立八十周年の式典を終え、あらたな出発を始めた本年度も順調に経過しております。昨年、春の卒業生は、名門湖陵の名にふさわしく立派な進路の実績を残してくれました。北大合格者が現役二六名、浪人一〇名と前年を上回ったのをはじめ、教育大三二名、釧路公立大四〇名など国公立大に現浪合わせて二一三名、私立大にも延べ二九二名の合格者を出し、例年と比べて難関大学への合格が目立つ良い結果となりました。

ご承知のように、分離分割方式を採用する国立大学が増え、また私立大取りの巻く環境は年々厳しい状況になっておりますが、本年度も生徒・教師が一体となり、各学年に対応した補習の体制を整備して、他の進学校に追いつき追い越せをモットーに努力しているところでございます。現在、三年生はセンター試験が終了し、これから

二次試験の出願を始めるところで、北大、教育大、小樽商大、釧路公立大など道内国公立大を中心とした出願となる見込みです。推薦入学についても慶応大、早稲田大、筑波大、教育大をはじめとする二六の大学に合格内定をしております。

部活動におきましてもめざましい活躍を見せております。本年度はハンドボール部が全国高校総体（宮崎県）に、合唱部が全国高校総文祭（沖縄県）にそれぞれ道代表として出場したのを始め、体育系、文化系の多数の部が全道大会において好成績をあげました。これも幾多の先輩が築き上げた伝統の賜と受けとめております。

今後、生徒の目的を達成するため、全職員が一致協力して指導に当たり、信頼に応える学校づくりをすすめる所存であります。湖陵高校が二十一世紀に向ってさらに発展を続けるためには、同窓の皆さまの暖かいご援助がぜひとも必要でございます。どうぞ、引きつづき絶大なるご支援をお願い申し上げます。



# 生涯学習センターオープンに寄せて



まなぼとと幣舞、



まなぼとと幣舞、オープン時の鰐淵市長  
(右から2人目)

## 特別寄稿

釧路市長

鰐淵

俊

之

(湖陵七期)

これからの自治体行政で、大変

重要なテーマに環境問題と生涯学

習がある。いずれのテーマも

「THINK GLOBALLY,ACT LOCALLY

(地球規模で考え、足元から行動

する)」という言葉に連なり、幅広

く、奥行きが深い、21世紀の市民

生活を展望するにあたって避けて

通れない命題であり、課題である。

### ラムサール条約 締約国会議 いよいよ6月開催

さて、本年は釧路市始まって以  
来の大きな催しとして、環境問題  
に関連し、6月9日から16日まで  
開催されるラムサール条約締約国  
会議がある。ラムサール条約とい  
う呼称は、釧路で釧路湿原の保護  
・保全運動がスタートした昭和46  
年、イランのラムサールで開かれ  
た「湿地及び水鳥の保護のための  
国際会議」で採択されたときから  
の通称である。正式名称は「特に  
水鳥の生息地として国際的に重要  
な湿地に関する条約」である。日  
本がこの条約の締約国に加入した  
のは、昭和55年である。釧路湿原  
はその際の国内指定・登録湿地の  
第1号である。

締約国会議は3年に1度の割合  
いで開催される。釧路会議はその  
5回目になる。釧路市での開催に  
ついては、釧路湿原の国立公園化  
を機会に当市が中心となり、早く  
から「外」をかきかいていたもので

ある。昨年6月、ブラジルのリオ  
デジャネイロで開催された史上最  
大規模の国際会議「環境と開発に  
関する国連会議(通称・地球サミ  
ット)の1年後に開催される会議  
であるだけに、その意義は国内的  
にも、国際的にもきわめて大きな  
ものがある。釧路の地域的特性を  
生かした国際化の時代にふさわし  
い会議であり、市民こそって学び、  
ホスピタリティを発揮し、会議  
を成功させたい。そして、環境問  
題学習の柱の一つとして将来へと  
つなぎたいものである。

### 「まなぼとと幣舞」 堂々オープン

昨春秋、幣舞の高台に「釧路市  
生涯学習センター」愛称・まなぼ  
とと幣舞」がオープンした。愛称  
は市民公募によるものである。

「何か学んでみようかなと思っ  
た」という意味で名付けられてい  
る。11月1日オープン以来の3ヶ  
月間で、既に、利用者は12万5千

# 生と議国会約締約条約サーラム



大ホールいっぱいハーモニーを響かせるシルバーコーラス

名を越え、市民の生涯学習拠点施設として定着しつつある。国内の生涯学習を目的とする単独施設では、数少ない本格的な最新の例だけに、視察者も多い。建設途中も含め4月以降の10ヶ月間で7千名以上になる。さらにオープン後は海拔高度641mの高さにある10階展望室が評判を呼び、9階のレストラン・ポルトと連動し、釧路市を訪れる人びとに釧路市を眺望する新名所として、重宝がられている。観光シーズンになれば、さらに利用者は増えそうである。

## “生涯学習”を市民みんなの心に

生涯学習は、昭和40年、ユネスコの成人教育推進国際委員会で、ポール・ラングランが提唱以来、世界各国に受け入れられ、国際的に急速な広がりを見せた新しい教育理念である。日本でも昭和41年の中央教育審議会や昭和46年の社会教育審議会でも取り上げられ、その後も国の各種審議会などで検討され、昭和59年から62年まで続いた臨時教育審議会の数次に及ぶ答申で、国家的課題として浮上し、昭和63年には文部省の社会教育局に代り、生涯学習局が筆頭局として設置され、平成2年に生涯学習振興法が制定をみた。一方、生涯学習社会の実現に向け、建設省、厚生省、労働省、郵政省、通産省、農水省、自治省、国土庁、環境庁など各省庁も関連した動きを展開しはじめる。都道府県市町村でも同じような動きがみられるようになる。いま、人々の間に自らの可能性を高め、優れた文化・芸術に接し、潤いと生きがいを求める気運が高まっている。

釧路市においても、従来の社会教育の枠を乗り越えた取り組みが必要となってきたのである。それ



親子でウッドクラフトづくりに取り組む

は社会全体が真の豊かさを実現する成熟社会へと変わらうとする表れであると考えられる。そのため、平成2年、3年の準備・検討期を経て、平成4年度を生涯学習元年と位置づけ、4月に生涯学習推進部を設置し、全庁的な推進組織として市長を本部長とする釧路市生涯学習推進本部を設け、市民サイドの推進組織として釧路市生涯学習推進会議と市の生涯学習推進活動に対し専門的な意見を述べ調査・研究をおこなう専門委員制度を発足させたのである。

このようにして、担当部、推進本部、推進会議、専門委員制度、推進拠点施設の完成により、釧路

市の総合行政としての位置づけが明確となったところである。

平成5年の本年度は、これらの体制を整え釧路らしい生涯学習の目標を定め、生涯学習都市宣言をおこない、生涯学習の大綱を策定する年度である。これに基づいて生涯学習計画が策定され、本格的な生涯学習の推進活動が総合的に展開されるのは、平成8年頃からと考えられる。

これらの取組みを契機に、北の大地に躍動し誇りと喜びに満ち溢れた生涯学習のまちづくりを目指して、なお一層努力を傾注して参りたいと決意しているところでもある。

最後に豊かな自然環境を生かした釧路市民の生涯学習活動というエネルギーの燃焼で、郷土釧路市がさらに輝きを増すことを切望する。

### “生涯学習の問合わせ、

釧路市生涯学習センター

(愛称 まなぼつと幣舞)

〒085 釧路市幣舞町4-28

☎0154-41-8181



# 活躍する同窓生

今回の「活躍する同窓生」は、海を越えロンドンの湖陵健児を紹介致します。五本氏は大林ヨーロッパ・ロンドン支店開発部長、畑氏は三井建設ロンドン営業所長として、ともに第一線で活躍しています。

## 同窓会ロンドン支部

五本 孝幸（湖陵17期）

通学のバスから眺める千代ノ浦海岸には、消波ブロックはなく、時々釣人を見かけた。校舎が中学校までのように木造ではなく、鉄筋コンクリート造だった点に素朴な畏怖を覚えた。

入学して暫らくは、こんな風景の中を漫然と往復していただけだった。先生達との交流は、必ずしも密とは言いがたく、（失礼ながら）逆探点(?)とも言わべき品定めを級友と交すのが日課となっていたように思う。

そんな生活に転機が訪れたのは、二年生の秋だった。「物のはずみ」とでも言った理由で生徒会長に立候補し、運良く当選してしまった。それから授業とは異なる側面での

生の先輩としての先生達と接することができ、役員諸君とホットに議論を戦わせることができた。これらは、楽しい思い出である。人氣のあつたフォークダンス（舟木一夫の世界ノ）をどうしたらより多く開催できるかを相談し、同好会の拡大活の形で月一回開催に漕ぎつけたように記憶する。

楽しいことばかりでは、勿論なかった。同じ学年から在学中に二名の方が帰らぬ友となった。

そんなこんなで、生徒会の任期が終るとポツカリ空っぽ感があつた。入試のため卒業式に出られぬまま大学生活に入った。学園紛争時代を経て、この時は、もっとやむやな形で卒業し、建設会社就職。現在ロンドンでの生活も七年目に入った。米国のシアトルとマウイ島での勤務を併せると計14年余の外国生活で、残念乍ら同窓会に出たことは殆どない。

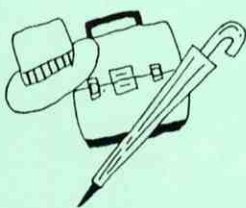
湖陵時代、外国、特に西洋は、敗戦の影響もあつてと思うが、心理的にとても遠く、憧れと反発とが緋い交ぜになっていた。

「百聞は一見に如かず」というが、初めて米国に入ろうとした際に入国係官の話が、とれず、自

分の必死の発音も通じず、最後は筆談で四苦八苦しなから入国させてもらった。（今も時々通じないが、厚かましきでカバーしている。）

時代は変わっていると思う。多くの同窓生が海外各地で活躍しておられる筈。

いづれ帰国の身分であるが、三井建設の畑先輩と本年早々同窓会ロンドン支部結成準備会(?)を開催した。当地在住の方、赴任予定の方は、是非声をかけて下さい。



五本孝幸氏

畑俊宏氏

## 「くまざさ」に寄せて

畑 俊宏（湖陵16期）

十一月の去る日、昼飯食堂で五本氏に会った際、氏から、同窓誌に寄稿することになったが私にもスペースを半分（九〇〇字分）譲るから何か書くようにとの話があつた。文を書くのが苦手なので躊躇したが、何んでもいいからと言われて従った次第で私は全くの飛び入りである。

五本氏とは五年ほど前、ロンドンでの同業の集まりで知り合い、氏も湖陵卒業であることを知った。聞くと私がひとつ歳上で、大学で学んだ(?)、学科も同じ、就職先も同業、事務所は歩いて数分ということいささか驚いた。世間はせまいといわれるが、なるほどと思つたものである。

今、国際化などといわれているが、ここロンドンにも多くの日本企業が進出しており、数万人の日本人が生活をし日本ブランドの製品も豊富である。また、相撲、歌舞伎などの日本文化も紹介されるなど、世界における日本の立場は私の高校時代とは大きく変わっている。

就職してからも外国勤務など考えもしなかつたし、その希望も全く、勿論、英語は全然で

きなかつた。その自分が十年以上も外国で暮しているのだから不思議といえば不思議である。初めて海外に出た時、八年間も英語教育を受けたのに挨拶ひとつできないのは、日本の教育制度が悪いのに加えて先生の教え方が悪かつたせいだと自分の不勉強を棚にあげて、中学、高校の英語の先生の顔を思い出しながらうらめしく思つたものである。（英語の先生ごめんなさい）

就職後、何回も釧路を訪れているが、そのたびに街並が変わっているのを見て紙芝居を見るような気がした。空港から駅というコースが多く、又サマイ橋を渡することもなく、すつかりご無沙汰していたら、私の思い出の中でもお世辞にしか立派と言えない校舎が解体されて移転新築されたと聞いた。私の青春の思い出がひとつ消えたように寂しい気がしている。

当時、男子生徒の憧れであつた隣のクラスの美女A子さん、明るくてチャームキングだったKさんは今どうしているだろうか。ちょっと会ってみたい気がするが、貫禄十分のマダムになつていたらいやだなあと思つたりしている（自分の頭の事は考えない）……………

# 青春譜・湖陵ヶ丘 ― 追記 ―



釧中32期 奥田達也

## 抗議に一文

この「くまざさ」に十三年間、連載を続けてきたが(へ5)号の「校風刷新事件」で、郷一「ザンキ」と二度の碑文」と書いたのに対して、伊藤郷一の自伝「嵐ヶ丘の青春」で

紙上に、刷新会事件に迷惑をかけた私の懺悔の気持ちからだと書かれているのをいつか見たが、それは勝手な誤推で、私はいまでも自分は正しいことをしたと信じており、ただひたすら先生の立派なお人柄に思慕の情を捧げたかったまでなのである。と抗議している。私が取材した「湖陵五十周年記念誌」に寄稿した郷一自身の文章で、

私は時々、今も校庭の一角に在りし日の温容そのままに鎮座せられる先生の胸像の前にたずみ、自ら内省の鑑としている。子供であり生徒である。子供の行動が、その人の一生において、正しかった」といい切る

中の名譽をけがさぬよう今後は努力せよ」と説論している。また、阿部与作先生と私に、卒業の時、全校生徒に告別の辞を述べたのち、教員諸子に託すことありとして向き直り「教師は人の子に教えるのであるから、より一層勉強して学力をつけるべきだ」と語ったが、これは若さの思い上がりで、いまとなれば面はゆい次第であり、懺悔の一語につきる。釧路第二ストの主謀者らは後に

「恥づかしいから触れないでくれ」という者が殆んどである。新しいネタ探がしに、先輩後輩の卒業後の文集を読みあさったが、「あの悪さが永遠に秘密のままではバレないことを祈る」と記し、こゝと釧中・湖陵高の在学中のことについては純情であり素直であった。たとえそれが結果的に見て成功しても、怪我の功名というべき。その決起にあたっての動機に天地に恥じざる誠の心ありや。だが、けつして、在学時代の行為を責めているのではない。むしろ、純粹で率直な心で行動した若さ故の至りを褒めるのである。在学三、四年生で戦地へ赴く覚悟は、たとえ軍服に憧れた、国を愛する心からといえ、余人のなさざるところ。目立たんがための正義感にしろ、情熱のおもむくままの行為は、若気の至りであり、若さ故になし得ること。純粹なのだ。その行動を咎めるのではなくて、反省のないことを責めるのである。大人になって尚、過去のあやまちを取り繕う卑怯さを嫌うのである。私もこの長い連載を反省してここに結ぶ。

## 懺悔と慚悔と慚愧

### 褒められる純粋な若気の至り

限りなき愛情に浴した私が学校のためとはいえ、一度は先生に弓を引いた。これが懺悔である。(後に、胸がいたむ」と改む)とあった。懺悔(はちてくいる事) 懺悔(ちてくいる事) ザンゲ ザンカイ ザンキ

事件後、一期上の五年生に制裁を受けたが、彼らの卒業式後に数名を呼んで中川久平一期生と共に「君らが卒業できたのは、阿部校長の人情あふれる処置による。本当は卒業できる成績ではない。釧

路第二ストの主謀者らは後に「恥づかしいから触れないでくれ」という者が殆んどである。新しいネタ探がしに、先輩後輩の卒業後の文集を読みあさったが、「あの悪さが永遠に秘密のままではバレないことを祈る」と記し、こゝと釧中・湖陵高の在学中のことについては純情であり素直であった。たとえそれが結果的に見て成功しても、怪我の功名というべき。その決起にあたっての動機に天地に恥じざる誠の心ありや。だが、けつして、在学時代の行為を責めているのではない。むしろ、純粹で率直な心で行動した若さ故の至りを褒めるのである。在学三、四年生で戦地へ赴く覚悟は、たとえ軍服に憧れた、国を愛する心からといえ、余人のなさざるところ。目立たんがための正義感にしろ、情熱のおもむくままの行為は、若気の至りであり、若さ故になし得ること。純粹なのだ。その行動を咎めるのではなくて、反省のないことを責めるのである。大人になって尚、過去のあやまちを取り繕う卑怯さを嫌うのである。私もこの長い連載を反省してここに結ぶ。

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

れんが屋★AM 11:00～PM 11:00

トロイカ★AM 8:00～PM 11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811





近藤 憲章

期待と不安を胸に抱き、湖陵ヶ岡に立つ伝統ある古き旧校舎に入學してからの三年間は瞬く間に過ぎ去ってしまい、徒歩や自転車、学校までの長い道程を通学したこともついで先日の出来事のように思われます。

入学して間もない頃は、体育館の中を飛び交う鳩、寝る人も起きるベルの音、昼でも暗く、歩くとぎしぎしと音が鳴り、落とした物は真黒になってしまふ廊下、気合と共に入っていった刺激臭滯うトイレ、外より寒かった教室、休み時間には人の壁を作った石炭ストープ、不慣れた生活の中にも今では経験でたないような体験を旧校舎では数多くさせて頂きました。

緊張して静かだった休み時間、奪い合いの様な部活動誘合戦が展開され、断わるのも大変でした。そして、ありがたくも行われた新入生歓迎会、予想もしなかった先輩方の紙吹雪攻撃にただ啞然とするしかありませんでした。これが湖陵高校かと驚きの毎日であり、少しずつですが湖陵の校風に慣れていきました。

高校生活という面で、文武両道という湖陵精神のもとで勉強は勿論、部活にも積極的に参加し、高体連では各部がすばらしい成績を残し、僕自身勉強と部活との両立

は相当の努力が必要だと改めて思いました。

夏の暑い時期に行われる湖陵祭、行灯行列や紅白などに全てが活気に溢れ、そのイベントに僕達は湖陵生のエネルギーを爆発させ、クラス全体、学校全体が一つにまとまる喜びを感じました。

僕達は、数ヶ月という短い間で旧校舎が完成したことで、新校舎が完成したことにより校舎は取り壊されることになりました。様々な不都合があった旧校舎でしたが、いざ取り壊しとなるとやはり寂しい気がしました。また新校舎に移転し初めての湖陵祭では、諸事情で行灯行列が行われず残念に

思いましたが昨年の湖陵祭では生徒会役員を中心に数多くの方々の協力のもとで行灯行列も行われることになり伝統が僕達の代で復活させることができたことに大変な喜びを感じました。

最後になりましたが、三年間という長い間の貴重な湖陵高校での経験はこれからの生活の中において大きな糧となると思います。そして、最後まで僕達を色々な面で熱心に御指導下さった先生方、事務や用務員の方々、そのほか僕達を下で支えてくれた方々、そしてここまで育ててくれた親に感謝の気持ちをごこで伝えたいと思います。

# 学窓を巣立つ

湖陵45回生



高橋夏穂子

卒業を目前に控えて、今思うことは「あつという間の三年間だった」という一言に尽きます。

私が入学した当初はまだ旧校舎で、鳩が飛び交う中、入学式が行われたことを今でも鮮明に覚えています。授業ベルは「火事だ！」と思うほどのすい音、全体的に暗く、トイレでは水を止めたくな

るほどの臭い、床はきしみ、掃除をしても何故か砂だらけで、はつきり言って「靴を履き替える必要があるのだろうか」と思ったものです。

しかし、旧校舎だからこそ許された湖陵祭でのハチャメチャさ。また私達の代で最後になってしまったファイヤーストームも経験することができたことは光栄に思えます。たった半年ほどの間で、旧校舎が壊された時には寂しい気がしました。新校舎は一転して明るく、快適に過ごせるように設備も整っていき素晴らしいです。是非大切に扱ってほしいものです。

入学当初は「湖陵に入れたのはいいけど、ついていけないかな」など不安もいっぱいでしたが、友達や先輩方と仲良くなるにつれ、高校生活にも馴れてきて、結局のところ緊張感もなく、ただなんとなく過ごしてきた気がしないでもないですが、やはり卒業も近くなると、高校生活も残り少ないんだ！と思いつき、毎日を有意義なものにしようと思えました。「高校生の時って楽しくなかった。」なんて言うより、「すごく楽しかった。」と言える方がいいに決まっています。そのように言えるくらい素敵な思い出を作れるよう、先輩の皆さんには、有意義な高校生活を送ってもらいたいです。

修学旅行、体育祭などの行事もありました。中でも湖陵祭は、放課後だけでなく、休みも返してまでのがんばりようで、やり終えた時の充実感と満足感はこの上ないものでした。このような経験ができたのも、担任を初めとして諸先生方の御指導と協力があつたからだと思います。

湖陵の伝統である行灯行列が諸事情で二年生の時、実施できず、先輩方に「ぜひ来年は！」などと言われており、復活できたことほうれしく思います。湖陵の良き伝統を受け継ぎ、守っていつてもらいたいものです。最後になりましたが、自由な校風の中で過ごすことができたこと、八十周年記念、並びに新校舎落成の場に居合わせたことを喜びとすると共に、湖陵高校が益々、飛躍・発展されることを期待しています。

さつぼろ地下街オーロラタウン  
ギフトブティック

## ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味ガ自慢の本格派レストラン●

## ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023  
営業時間/AM11:00~PM9:00

妹尾商店  
新橋大通1丁目 ☎25-5345

新富士ストア  
新富士駅前 ☎51-3467

愛国ストア  
愛国西3丁目 ☎36-3399

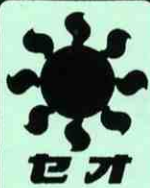
白樺ストア  
白樺台1丁目 ☎91-5423

昭園ストア  
昭和北1丁目 ☎51-8853

太陽のように  
明るく暖かい真心で  
良い品をより安く  
ご奉仕する

# セオチェーン

あたたかなふれあい





# 「学園だより'93」母校の活動

文責 湖陵4期 和田 信幸

同窓会の皆さまいかががお過ごしですか。ぐくまざさ、27号の発行にあたって、母校のこの一年を概略振り返ってみます。

## 〈四月〉

・新年度スタート(8日・始業式・新任式)。23代佐竹祥薫校長(前任校・白老東高校)、福井誠一教頭(前任校・稚内高校)を含め総勢17名の教職員を新たにお迎えする(全日制)。

・入学式(8日・新入生441名)。  
・宿泊研修(16日～18日、1年生・川湯御園ホテル)。  
・その他、PTA・後援会役員会及び総会、体位測定、各種健康診断、交通安全指導、就職ガイダンス等々新年度発足に伴って、ホームルーム担任を初め校内全体多忙を極める。

## 〈五月〉

・高体連バレーボール銅根支部予選大会当番校業務(29日～31日)。  
・高体連各競技の銅根支部予選はじまる(～6月中旬)。  
・佐竹祥薫校長病を得て急遽入院。

## 〈六月〉

・高体連全道大会出場クラブ柔道、陸上、体操、テニス、ソフト

テニス、サッカー、羽根球、バスケットボール、バレーボール、弓道、ハンドボール等11クラブ。このうち、柔道では女子72kg以下級で沢向ひかりさん(2年生)、72kg超級で木屋好絵さん(2年生)

が各々優勝、ハンドボール男子は函館有斗高校を破って10年振り4回目の全道優勝。全国大会へ。

・放送局、NHK杯放送コンテスタアナウンサー間で全道代表に。  
・教育実習(1日～13日、16名)。

## 〈七月〉

・夏期講習会(26日)％、3年生・3教科延べ600名受講)。  
・夏期校内補習授業(26日)％、1・2年生延べ1、153名参加)。  
・放送局、NHK杯放送コンテスタ全国大会に出場(27日～28日・東京)。

・北原亜希さん(2年生)、英国バレー学校A・E・ロンドンスクールに留学。

## 〈八月〉

・第24代笹山 平校長を迎える(1日付、前任校・釧路北陽高校)。  
・ハンドボール男子、高体連全国大会に出場(4日～6日・宮崎)。  
・第42回湖陵祭(28日～31日、行

灯行列再開される)。

・国体・新人戦全道大会出場クラブ柔道、バレーボール、羽根球、ソフトテニス、陸上等。このうち柔道女子で木屋好絵さん(2年生)国体北海道代表選手に選ばれる。全国大会へ。

・合唱部、全国高校総合文化祭に北海道代表として参加(4日～8日・那覇市)。

## 〈九月〉

・第2土曜日休日となる(近い将来さらに第2・4土曜日休日になった場合の対応策を現在検討中)。

## 〈十月〉

・小松伸六文庫公開(文芸評論家小松伸六氏・銅中15回生よりの寄贈本約2、000冊のうち一部800冊を図書館内に公開)。  
・高文連全道大会参加クラブア

マ集録、資料、美術、写真、書道、図書、新聞等。

・国体に柔道女子で木屋好絵さん出場(4日～6日、山形・団体4位)。

・見学旅行(2年生、東京・京都・奈良方面、24日～29日、第2班は一日遅れ)。

## 〈十一月〉

・高文連演劇全道大会当番校業務(12日～16日、生涯学習センター)。  
・高体連・選抜(新人戦)全道大会出場クラブ(11月)ーアイスホッケー・フィギュアスケート、ソフトテニス、羽根球、ハンドボール、バレーボール(フィギュアとハンドボールについては後述)。

・全道高校生読書体験感想文コンクールで、菅原枝利さん(1年生)が最優秀賞、全国コンクールで優良賞を受賞(「かもめのジョナサン」を讀んで、で)。有島青少年文芸賞では、渡辺聖子さん(3年生)が「太陽の喪失」を書いて佳作入賞。

・3年生前期特別授業開始(10日～22日、午前授業)。  
・高体連スケート全道大会で、小杉陽子さん(3年生)がフィギュア競技で三連覇。全国大会へ。

・冬期校内補習授業(23日～28日、



北原 亜希さん

1・2年生延べ1、085名参加)。

## 〈一月〉

・三学期始業式(19日)、釧路沖地震(15日、M7.8)で本校も被災、屋体使用できず各教室で実施。  
・大学センターテスト(16日～17日、259名受験)。  
・ハンドボール女子、選抜北海道大会で6回目の優勝、全国大会へ(3月、名古屋)。

・3年生後期特別授業(19日～30日)。  
・高体連スケート全国大会、フィギュア競技で小杉陽子さん(3年生)健闘して8位。(苦小牧)

## 〈三月〉

・第45回卒業式(1日、従来の10日が本年度から1日実施に。卒業生436名、卒業生総数20、911名)。

・平成5年度高校入試(9日)。  
以上手短かに概略を記しましたが、今年もまた多忙のうちに経過した学園の動きが、少しでもご理解いただけたかと思えます。今後

(次頁へ)



再開された行灯行列



(前頁から)  
とも母校のため、後輩のためによろしくご援助のほどお願い申し上げます、報告とします。

# 事務局だより

## 関口記

### 平成4年度3月卒業生進学状況

	性別計	卒業者	就職希望者	進学希望者	合格者							不合格(含不明)	
					大学			準大学	短大	各専	種修		合計
					国公立	私立	計						
4年3月卒	男	251	4	247	68	50	118	1	1	21	23	106	
	女	189	5	184	42	41	83	0	49	23	72	29	
	計	440	9	431	110	91	201	1	50	44	95	135	
	%		2.0	98.0	25.0	20.7	45.7	0.2	11.4	10.0	21.6	30.7	

一九九三年は成人の日の夜の釧路沖地震で始まったと云っても決して過言ではありませんが、同窓会々員の皆々様におかれましてはご健勝にて毎日をお過ごしのこととご拝察申し上げます。また常日頃から同窓会に対するご支援・ご協力を賜わり衷心より厚くお礼申し上げます次第でございます。

さて、昨年の総会は湖陵十期、二十期、三十期の当番幹事の皆様のご協力のもと、盛大に挙行されたところでございます。当番幹事の皆様大変ご苦労様でございました。近年の総会は若い方々の参加が多くなって来たように思われ事務局としても非常に喜ばしいことであると感じているところであります。当同窓会会員も遂に二万人を超えたといわれておりますので当然のことといつてしまえばそれだけのことでありますが、釧中、そして湖陵という歴史の重みをいままさながら感じざるを得ません。このようなことから今後の同窓会を支え、引きつりに期待す

るのも事実でありますと同時に非常に力強く感じているところでもございます。しかし古き良き伝統を持続させることは易しいようではなかなか難しいところでもあります。諸先輩が永い間、積み重ねてこられたこの伝統を今後益々新しい観点からみながきあげよりよい同窓会づくりを進めていかねければなりません。これは同窓会会員一人ひとりの和と協調がなければ決してなれないものであるのも事実でございます。会員の皆様との和の中におのずと協力が生まれ、それが同窓愛になるものと信じております。近年は東京始め札幌などの同窓会は会員数、あるいは活動内容など年々充実されております。私も会長のお伴をして各支部の総会に出させて頂いておりますがただ感激するのみでございます。いまや釧中・湖陵の同窓生は全国あらゆるところで、それぞれがそれぞれの分野で活躍されていることは論を俟たないところでございます。

先頭に学校長、事務長一行が北海道教育庁の方へお願いに行つて参りました。幸いにも湖陵七期の蓮見先輩が企画管理部の総務課長という要職におられることから、建設のために必要なアドバイスやその他あらゆる点についてご配慮を頂き、開催者の方々に引合せ下さるなど、大変お世話を下さいました。お蔭を持ちまして着々と準備を進めさせて頂いておりますが改めて先輩のありがたさを感じみと味わつたところでございます。建設のゴーサインが出ますといよいよ本格的に取り組みさせて頂いておりますが何んと申しまして同窓会々員の皆々様のお力をなくして決して完成出来るものでございませぬ。その時期になりましたら大変なご支援、ご協力をお願いすることになるものと思われまます。どうかくれぐれもよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが会員皆様のご健康を心からご祈念申し上げます。事務局のたよりとさせていただきます。

長い冬のトンネルを抜け出てほのぼのと早春——春光ものう季節春暖快適です。

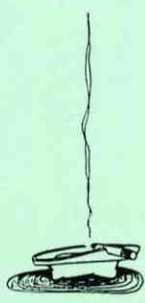
母校を愛する同窓会員の皆様はお元気で、それぞれの職務に努められておいでの事と、お慶び申し上げます。

今号は本年度卒業証書授与式に因んで、母校と同窓会の情報として27号をお届けします。下段の広告を心よくお寄せいただいた会社・商社のご協力で厚くお礼申し上げます。

読者の皆様にお願ひですが、各地での湖陵同窓会及び各期の方々の語らい・集会等の記事、写真の情報を掲載致したく、お待ちします。是非お寄せください。

情報豊富な内容として編集致したく存じます。

## 編集後記



- 編集者 会長 久本 甫  
副会長 遠藤隆吉  
幹事長 関口政司  
委員長 上岡信明  
委員 平野清次郎  
委員 石川和男